

**[出題方針]**

崇城大学の英語における学力検査では、高校段階までに身につけた基礎的な英語力を総合的に評価することを出題方針としています。文法・語彙の問題では、基本的な事項が定着しているかを確認し、長文読解問題では、文脈を踏まえて内容を理解する力や、文章全体の要旨を把握する力を評価します。また、単なる知識の正確さだけでなく、与えられた情報を基に意味を考え、判断する力を重視しています。これらの力は、本学が重視するコミュニケーション能力や、主体的に学ぶ姿勢につながるものとして位置づけています。

**[高校の学習で大切にしたいこと]**

- 英語を「知識」として学ぶだけでなく、「伝えるための手段」として捉える視点を持つことです。本学の英語教育では、コミュニケーション能力の育成を重視しており、自分の考えや気持ちを英語で表現しようとする姿勢が、入学後の学修につながります。
- 英語を聞いたり読んだりした際に、すべてを完全に理解しようとせず、分かる情報を手がかりに全体の意味をつかもうとする力を身につけておくことが重要です。このような姿勢は、入学後に英語で行われる授業や活動に取り組む際の土台となります。
- 基礎的な語彙や文法を着実に身につけ、それらを使って意味のある英文を理解・運用する力を養うことです。コミュニケーションを支える基礎学力として、高校段階での積み重ねが不可欠です。

**[2025年度 出題内容・出題形式・合計得点・試験時間]**

出題内容	出題形式	合計得点	試験時間
A：文法・語彙	マーク式	25点	30分
B：長文総合問題			

**[出題の意図]**

A：文法・語彙に関する空所補充問題

文単位の問題を通して、英語の基礎的な文法および語彙（慣用的な表現を含む）の理解度を確認することを意図しています。各設問は、高校段階で学習する基本的な文構造や語彙を用いており、文の意味が正しく成立する選択肢を判断できるかを評価します。この設問を通して、英語を正確に読み取り、基礎的な知識を適切に運用する力を測ります。

B：長文読解

200～250語程度の英文を用いた長文読解を通して、文脈に基づいて内容を理解する力を評価することを意図しています。文中の語彙に関する空所補充問題では、前後の内容を踏まえて適切な語を選択できるかを確認します。また、タイトル選択問題では、文章全体の要旨を把握する力を測ります。これらの設問を通して、英語を意味のあるまとまりとして理解し、内容を総合的に判断する力を評価します。